

「県民と県議会との意見交換会」 軽米町会場 の概要

- 〔日 時〕 令和5年12月14日（木）13：00～14：54
〔場 所〕 かるまい文化交流センター宇漢米館多目的ホール
〔テーマ〕 地域資源を生かした観光振興について
〔参加者〕 （6名）
大 向 昌 彦（道の駅いわて北三陸 駅長）
大久保 瞳（特定非営利活動法人カシオペア市民情報ネットワーク 放送局長）
大清水 彩 子（大清水旅館）
安ヶ平 敦 男（九戸村商工会 事務局長）
坂 本 香 菜（洋野町水産商工課 観光振興推進員（洋野町地域おこし協力隊））
小山田 四 一（御所野遺跡を支える会 会長）
〔出席議員〕（8名）
高橋こうすけ議員（座長）、名須川晋議員、佐藤ケイ子議員、松本雄士議員、
村上秀紀議員、吉田敬子議員、工藤剛議員、木村幸弘議員
〔オブザーバー議員〕（1名）
田中辰也議員

◆ 参加者自己紹介及び現在の活動状況等について

○大向さん

私は久慈市出身である。大学卒業後に上京し、25歳で都内に飲食店を構え、4人の仲間と一緒に経営を行っていた。30歳になったときに東日本大震災津波が発災し、岩手県に戻り、盛岡市に拠点を置いて、県の復興支援プロジェクトの一員としてかかわらせていただき、被災地と向き合う日々を過ごした。その後、防災士の資格を取り、NPOに所属して全国の災害支援を続けてきた。そして40歳のときに故郷の久慈市に戻り、集落支援員として2年間活動した後、道の駅いわて北三陸の駅長に着任した。

道の駅いわて北三陸は、指定管理をシダックス大新東ヒューマンサービス株式会社が行っている。シダックスというと、カラオケを思い出すが、現在カラオケ事業は撤退している。シダックスは全国の行政施設等の運営を行っており、観光部門でいうと道の駅いわて北三陸を含め全国30か所以上で観光施設の指定管理を行っているところである。自社のノウハウを生かし、道の駅いわて北三陸の指定管理も行っている。

道の駅いわて北三陸は、久慈広域の4市町村の交流拠点となる道の駅であり、日々プレッシャーと戦っているところである。また、昨今の道の駅は多様性がとても求められている。12月に入り、来館者数がおかげさまで80万人を突破し、年間想定が105万人であるので到達を目標として運営を行っているところである。

○大久保さん

私の生まれは一戸町である。ただ、二戸市在住歴が長いのでほとんど二戸市出身と申し上げている。カシオペアFMには震災があった2011年の6月に入社し、12年がたった。受験真只中の15歳の息子がおり、仕事が終わって家に帰ると志望校はどうするかとそんな話をする日が続いている。

カシオペアFMは、カシオペア市民情報ネットワークというNPO法人で運営しているコミュニティFMである。二戸市を中心に、カシオペアエリアの一戸町、九戸村、軽米町、そしてお隣青森県田子町、三戸町などの情報を中心に情報発信している。

カシオペアFMは、2005年に東北初のNPO法人のFMとして開局し、12月19日で丸18年がたつところである。岩手県では、ラヂオ盛岡に次いで2番目に開局したコミュニティFM

で、現在自主制作番組は 22 番組あり、生放送は平日に 6 時間、土曜日に 3 時間放送している。ラジオのほか、パソコン、スマートフォンなどで聞くこともできる。先ほど名刺交換した盛岡市の方から聞いていますと御挨拶いただき、とてもうれしかった。2021 年からは、二戸市の防災システムの一環として、防災ラジオの運用も行っている。

ラジオとは全く関係ないが、地域のスポーツ団体カシオペアカーリング協会の事務局も行っており、私自身もこの冬はカーリングを楽しんでいるところである。

○大清水さん

生まれて 11 年間は東京都で育った。縁あって軽米町に嫁いできて、旅館業に初めて携わった。

2015 年ぐらいから、急に女性のお客様がふえ始め、それまでは仕事で来られる男性の方ばかりだったので、女性の方が来ることがとても不思議だった。卒業旅行で来られた方と話をしたときに、実は軽米町はハイキュー!!という漫画の聖地だと教えてもらった。ハイキュー!!自体知らない、そういう旅館だったので、これはいけないと主人がそのファンの方から教えていただいた漫画を本屋に買いに行き読んだところ、こんなおもしろい漫画を軽米町出身の人が書いていて、こんなにたくさんの軽米町の景色が描かれているのかと。主人は軽米高校出身なので、「これは軽米高校なのか？俺、通っていたぞ。俺のときはバレーボール部があったが、今はない。」という話をファンの方ともした。国内からのハイキューさんばかりだったのが、だんだんと海外からも来るようになった。コロナ禍でパタッとお客様が来なくて、どうしようかという話をしているときに、多少なりとも県内近隣の仕事があったので、生き延びることはできた。

アフターコロナの状況は、とにかくインバウンドのお客様がたくさん来られるようになった。そのときに、コロナ前と今の状況で来るお客様があまりにも違うことがわかった。ほとんどのお客様が英語のわかる方だったので、英語で全てコミュニケーションをとれるようにした。また、来られるお客様が持ってくる携帯電話が、日本の電話がかけられないものであったりするので、そういう場合に、当旅館は SNS でコンタクトをとる方式をたまたまとっていたため、ほとんど不便はなかった。他の場面でいろいろ不便が生じていることが、お客様との接点の中で感じるものがたくさんある。

外国人集客について、今盛岡市がニューヨーク・タイムズ紙に選ばれたことにより世界中からたくさんの外国人が来られるし、平泉町はもちろん世界遺産になったことによってたくさん来られている中で県北には何があるか。久慈市にはあまちゃんや国立公園がある一方で、軽米町に外国人が来る理由のひとつはハイキュー!!である。軽米町は、いろいろな意味でアクセスがとても不便なので、公共機関を利用する外国人の方を久慈市から直接結びつけるには難しいところはあるが、二戸市など新幹線を使うルート上であれば、軽米町に来るお客様に希望していただくことはできると思うので、工夫していけたらいいと思っている。

このような場所に声をかけていただけたこと、そして多くの海外から来るお客様にとって、このエリアのことをより知ってもらえるような環境をつくっていけることはすばらしいと思う。

○安ヶ平さん

私は旧浄法寺町出身である。旧浄法寺町商工会では天台寺の現在の参道ルートつつじの植樹を行い、ちょうど瀬戸内寂聴さんが天台寺の住職として晋山するあたりに九戸村商工会に転勤し、旧山形村商工会では謎の生物ガタゴンをシンボルとしたガタゴンまつりにもかかわった。その後平成 19 年に久慈商工会議所に転勤となり、あまちゃんを観てやりたかったのが大漁旗を振ることで、部下がとめるのを差しおいて自分から大漁旗を振っていい思いをした。そして、縁あって昨年 20 年ぶりに九戸村商工会に戻ってきた。私が 30 年前に九戸村商工会に転勤した当時は高橋克彦氏が「天を衝く」という本を出版したあたりで、村でも九戸政実公で地域おこしをしようとする機運があったが、20 年ぶりに九戸村商工会に戻ると、大分その様子が変わっ

ていた。

若い人が中心となって、キングオブチキン、通称オブチキンに関するイベントの開催などの活動を展開している。知らない人に勝手に使用されたくないとの考えから、商工会としてことし単独で商標登録申請をした。今後は商工会として、これを若者の活躍の場の形成や交流人口のキーワードとして活用していくとともに、商売にも有効に使っていきたいと考えている。

本年度から当商工会飲食業部会の飲食店で加盟店を募り、飲食店で提供するからあげを「オブチキからあげ」と統一呼称し、8月から「オブチキからあげやっります運動」を展開している。先日産業まつりがあり、ことしはオブチキ感謝祭とコラボした。例年集客が2日間でそれぞれ1千人くらいしか集まらなかったのが、ことしはSNSで発信したところ、両日1,500人とすごい集客でスタッフも日中全然休憩をとれなかった。どこから来たか聞くと県外の方が結構いて、東京都、横浜市、遠くは三重県の方がわざわざオブチキに会いに来た。やはりオブチキ本人のSNSを活用した発信力もあってファンが多く、民間放送局のアナウンサーが仕事ではなくお忍びでイベントに参加していた。本当にこの集客力というか魅力はすごいと思っている。今後は、まだ行政と一体で動いてないが、やはり今の若い人達のトレンドがオブチキだと思っている。これを九戸村の新たな観光のキーワードとして、我々も取り組んでいかなければと考えている。

先日次年度の商工会の予算要望について、村長と意見交換した。空き店舗対策で具体的に何か考えているのかと聞かれ、オブチキ感謝祭でワークショップをしたときに、若い人たちからこの商店街をステップにオブチキのアジトや隠れ家みたいにして、村内だけではなく今回集まっている県外の方との交流拠点や集まれる場所ができないか、という話がありましたよと話したところ、村長もおもしろいが結局それは空き店舗といっても個人のもので、簡単に進められないと言っていた。これについては商工会なのか、行政なのかかわからないが、商店街への回遊性を高め、そして商売につなげるために、実現させていかなければいけない課題ではないか、また可能性があると感じている。

○坂本さん

出身は滝沢市である。中学生のときに見た添乗員の仕事ぶりを見てから、観光業につきたいと思っていた。大学で観光業を専攻し、株式会社JTBに就職した。その後、一般社団法人しずくいし観光協会にお世話になり、現在洋野町の地域おこし協力隊として活動している。

洋野町に来た大きなきっかけは、ずっと観光業に勤めていたがコロナ禍で観光業が停滞し、今後のことを考えたときに洋野町で観光に携わる仕事がしてみたかったことを思い出し、ホームページでちょうど地域おこし協力隊の観光振興推進員の募集を見かけ、応募をした。現在は水産商工課で担当している観光協会のホームページや、観光協会主催のウォーキングイベント、そばづくり・パンづくり体験などの体験の企画運営をしている。

ことしは三陸DMOセンターの協力で旅行会社や旅行関連業者16名を迎え、モニターツアーを開催した。このモニターツアーは、「本州一の水揚げ！見て、触って、食す おいしいウニの秘密を巡る旅」ということで、水産業者と協力し、ウニ栽培漁業センター、ウニ増殖溝、ウニのから割り体験、はまなす亭でウニ尽くしを食べるといった、洋野町の「つくり育てる漁業」をぎゅっと詰め込んだ企画をし、大変好評を得た。今後はこのような企画をバス会社や旅行会社に売り込み、近隣市町村以外の方にももっと知っていただけるような活動をしていきたいと思っている。

○小山田さん

当会は平成14年に御所野縄文公園がオープンすると同時に発足し、以来20年以上にわたり御所野縄文博物館が主催するイベントや調査活動への協力、来訪者へのガイドを行っている。現在会員は25名で、遺跡のガイドを行っている会員は8名である。一般来訪者のガイドは4月から11月までの8カ月間、土日祝日に2名で行っている。平日も含めて、予約でガイドを

要請してきた団体には、博物館の依頼を受けて会員がガイドを行っている。ことしの傾向でいえば、土日の一般来訪者でガイドを依頼される方は2から3名の少人数のグループが多く、県外の方が多い。土日のガイド希望者は10月までは1日10組以上あったが11月になって急激に減り、11月25日は4組、最終日の11月26日は5組だった。昨年度の年間ガイド数は、3,257名である。

◆ 意見交換

○松本雄士議員

自己紹介とともに地域の特色ある現在取り組んでいることについて話があったが、改めて知られているものでもいいので、地域資源の中で自慢できるものや強みがあれば教えていただきたい。

〔回答：大向さん〕

道の駅いわて北三陸が久慈広域のため4市町村でお話しをすると、久慈市はあまちゃんの再放送で多大な恩恵を受けたこともあり、海を生かしたPRができると思う。洋野町は個人的に大野のひろのまきば天文台が好きで、田舎者の私が見ても星がとても綺麗だし、それを間近に天体望遠鏡で見て楽しめるのはすごくいい施設である。野田村はやはり海になるが、震災後景観が変わってしまったが、やはり十府ヶ浦の景色はとても素晴らしく、子供のころから大好きな所である。普代村は本県で一番人口の少ない村ではあるが、観光のPRをとても頑張っていて、すっきいとえんぞーというキャラクターがおり、SNSでも結構人気があるキャラクターである。その観光PRに関していうと、私どもも普代村のPR方法を参考にさせていただいている部分がある。

〔回答：大久保さん〕

これ一つというのは大変難しいが、二戸市は天台寺や九戸城など文化遺産がたくさんあるところは観光のいいところだと思う。ブランド果物も実は有名で、りんご、ブルーベリー、さくらんぼなどがあり、摘み取り体験もできるし、ブランドのつく果物を生産できる気候と農家の方の腕がすばらしいと思う。また、二戸市の企業は割と何をするにも連携して行っており、例えば、インバウンド対応で、二戸フードダイバーシティ協議会を立ち上げている。ハロウィンターナショナルスクール安比ジャパンの開校などもあり、いずれは二戸エリアにそういった海外の方もたくさん来るだろうということで、飲食店とも連携して、二戸市で受け入れる体制をつくっていこうと一丸となって取り組んでいるところがいいと思う。

〔回答：大清水さん〕

軽米町はチューリップや、2000年ころの洪水の後に河川敷に整備した桜並木や軽米町歴史民俗資料館の桜が綺麗である。そういう季節ごとの綺麗な景色はたくさんあるが、観光資源となると変わってくる。多くのハイキュー!!ファンからは、軽米町の人はとてもフレンドリーだとよく聞く。軽米町民はハイキュー!!ファンを親しみを込めてハイキューさんと呼ぶのだが、旅館に泊まったハイキューさんと話をすると、とにかく小学生が元気よく挨拶をしてくれるし、中高生も声をかけてくれる。特に大人はハイキュー!!ファンの方ですかととても親しみをこめて声をかけてくれる。東京都など殺伐としたところから来る方がたくさんおり、誰彼関係なく声をかけてくれるのは嬉しい。人によっては家に寄って行きなさいと言って、御馳走してくれたり、何かをくれたりなど、そういう小さいおもてなしを軽米町に来て初めて体験したという方もいた。

軽米町のいいところはたくさんあるが、外部の方から言われるのは、とにかく軽米町の人が素敵だということである。人が素敵だと言われることはとても難しいことであり、それは町に住んでいる人のホスピタリティだと思うので、そこが旅館をやっている感じのお勧めである。

〔回答：安ヶ平さん〕

九戸村の観光の強みは、歴史的には九戸政実という英雄や、長興寺の公孫樹（村指定天然記念物のイチョウの木）などである。また、二戸市と共有しているのが夏の折爪岳のホタルも強みであるし、高速のインターチェンジを降りたところにある道の駅おりつめオドデ館は立地的に強みといえると思っている。

年老いた人間はそれで納得するが、若い人たちからみた強みは、我々は何とも思わなかったブローラー産業が岩手県一位だということで、オブチキを強みにかえ、ことしはオブチキのねぶたをつくるなどいろいろなイベントの形で新たな強みとしている。

〔回答：坂本さん〕

洋野町は先ほど挙げていただいたひろのまきば天文台は大野地区でとてもお勧めしており、冬の時期によく御案内する観光場所である。洋野町は山側と海側とあるが、海側についてはウニ増殖溝や、あまちゃん話題になった南部もぐりである。種市高校海洋開発科の生徒が少なくなっているため、協会としても協力して発信しているのだが、南部もぐりの情報発信などを進めていきたいところである。この2から3年であるが、青森県八戸市から福島県相馬市をつなぐ、みちのく潮風トレイルの洋野町区間は、他のトレイルコースと比べ海沿いを歩くことができるコースになっており、当協会としても今お勧めしているところである。

〔回答：小山田さん〕

自然については天然記念物が5つもあり、文化については日本で一番古い映画館の萬代館、文学については三浦哲郎の碑、住居、墓がある。御所野遺跡はなんといっても、生かしたいところである。御所野遺跡には遠くからも来ていただいており、その方たちはある程度知識を持ち、また知りたいということでガイドを依頼される。できれば来た方々に御所野遺跡の世界遺産としての意義をわかっていたいただきたい、そういう気持ちでやっている。また、自然については、奥中山高原スキー場や高原野菜などもアピールしたいと思っている。

○松本雄士議員

すばらしいものがたくさんある。もっとあるのだと。それは観光資源、景勝地、もの、体験だけではなく、歴史文化や人柄などそれぞれがもっとつながれば、もっと県北として発信が強くなるのではないか。その連携の仕組みづくりや情報発信を官民で一緒にやっていかなければならないだろうと思っている。よそ者や若者、地域おこし協力隊のような方は、違う視点でもっといいコンテンツの発掘があるだろうと思う。そのコンテンツを拾い上げる、磨く、そして連携する、発信していくという取り組みを考えていきたいと思っている。

○佐藤ケイ子議員

軽米町のインバウンドのお客様が大変ふえているということで驚いたのは、軽米町の方が好きということで、それはすごいことだと思う。人から声をかけられることが嬉しいという感覚なのだと気づかされた。

お聞きしたいのは、外国人のお客様をどうやって招き入れるか、どうやってPRしていくか、何がこの地域で不足していてインバウンドに対応できないのか、外国人のお客様にどうやって対応しているのかということである。また、問題があれば、県にどうしてほしいかなどというものがあれば教えていただきたい。

〔回答：大向さん〕

多様性にはいろいろな意味があるが、特に道の駅に求められているものとする、第3ステージという言葉が新しくできている。それ以前に防災道の駅というワードが出てきて、どちらかという道の駅はテーマパーク化していくというか、もともと休憩施設と情報発信が道の駅

の形だったが、それがいつからか物販や産直がつくようになった。そこにまた各市町村がプラスチックで特性を持たせていき、今の道の駅がトレンドになってきている。

インバウンドに関しては、幸いという言い方が正しいかわからないが、実はまだ道の駅いわて北三陸にはそれほど外国人観光客は来ていない。久慈市でいうと、外国人は市街地にある道の駅くじに集中している印象である。インバウンドは迎える側の準備もやはりとても重要であるので、4月に開業したばかりなので、今のところピクトグラムをうまく活用し、どこに何があるかは外国人の方が見てもわかるように表示はしているが、いざ言葉でのやりとりとなるとやはり私を含めてそこは課題がある。例えば翻訳アプリの導入などを検討しているが、まだ比較的緩やかな流れで来ている今だからこそ、受け入れる側がしっかり準備していこうという段階である。

【回答：大清水さん】

まず一番問題になっている部分が、最近気がついたことだが、お客様が持ってきている携帯電話が日本国内で電話をかけられないものもあるということである。よく聞くのがブロイラーなどの技能実習生が自分の国で契約をしたスマートフォンを持ってきて、日本では電話をかけられないが、自分たちのネットワークで連絡をとるときには全く問題がないという話である。そういう電話だということはわかったが、一番困るのが、地元の電話番号にかけても連絡が取れないため、いろいろなものが利用できないという問題が発生していることである。

軽米町でいうと、レンタサイクルを町でやっており、そのレンタサイクルの書類の中に電話連絡がとれない人には貸すことができないという項目がある。唯一使えるSNSがラインだったのだが、わざわざそのためにラインをインストールしてくださいと、外国人のお客様に言いにくかったので、他に方法がないか聞いたところ、ないとのことだった。当旅館はたまたま多くのお客様とインスタグラムでやりとりをしていたので、とりあえず当旅館が間に入った。ハイキュー!!ファンはオタクなので、漫画で勉強してそれなりに日本語もわかるが、それでも何かハプニングが起きたときに日本語で連絡がとれるかという点と難しいと思う。そこで、中間地点に当旅館が入り、何かあったときには当旅館に連絡をもらい、当旅館から貸出をしている物産館の窓口で連絡をするということで承諾を得て貸していただいた。結果、問題なく終わったが、もう電話で予約や連絡を待つ時代ではなく、SNSを通じて連絡をとる時代になってきていることを認識した上で情報発信をして、そこでコミュニケーションをとる形を取っていかなければならないと思う。

二戸駅から来るお客様は多くの場合新幹線に来て、そこからバスに乗って来るのだが、最近JRバスには片言の英語を話す運転手が乗っており、ジャパン・レール・パスの有無を英語で確認しているようで、とてもありがたいと思っている。

二戸駅からタクシーに乗りたいが乗れないという問い合わせが過去にあり、どういうことだろうと思って聞くと、タクシー乗り場で待っているがタクシーが来ないのでどうしたらいいかということだった。そこでタクシー会社の電話番号を教えたところ、また連絡が来て、電話がかからないとのことだった。問題は日本で使えない電話を持っていた点であったが、たまたま時間があつたので、タクシーが来るまでなにやらのお土産屋さんに飾ってあるハイキュー!!の作者が書いた色紙などを見たりして、20分ぐらい時間を潰してきてちょうだいと話した。同じ駅ビルの中に二戸市観光協会が入っており、そこに相談に行けば道は開けると思うのだが、外国人は観光協会に気づかない。軽米町に来る外国人も二戸市の財産であると思う。観光協会など自分の所に一度引き寄せて、二戸市管内のPRもついでにしていただけると、より一層この地域のPRができるのではないかと思います。

皆さん英語を話せる人がとにかくいないと困って、ここに来て、やっとな英語で会話をして、何の苦もなくコミュニケーションが取れる人に会えたという話をたくさんされる。いろいろな場所の英語表記と同時に、英語が話せる人がいます、アプリでコミュニケーションが取れますという表示が必要だとすごく思う。

旅館としてどういうことをしているかという、ツイッターは長く使っている。今までは日本語だけだったが、外国人からのフォローもふえてきているので、外国人向けにも発信したい情報に関しては、英語と日本語の両方で表記し、どちらからも質問を受けている。インスタグラムとフェイスブックは連動しているので8割外国人向けに発信している。とにかくSNSで連絡をとれるようにすることが最もスムーズに行くので、外部向けに英語表記をもっとふやしてもらわないといけない。外国人を呼びたいだけでは、呼ばれて来た人はどうするのか。外国人の方々も翻訳アプリなどを利用して楽しまれてはいるが、それだけですべてが通じるわけではなくて、困っているという部分を補えるのはやはり人なので、困ったときにかかわれるようにしておくのが大事だと思う。

当旅館に泊まったお客様が盛岡市に行ったときの話だが、その方も電話を使えない方で、たまたますごく親しくなった方だったのでそういう連絡をしてきたのだと思うが、次の宿泊先に到着する時刻が遅くなるので、連絡をしておいてもらいたいと頼まれた。やはりSNS環境が整っていないと、そういう小さな連絡もできなかつたりして、相手に対するサービスという部分で欠落してしまっている。日本人のためのサービスではなく、外国人のためのサービスというところをもっと考えていかないと、インバウンドを受け入れることはとても大変だと思う。特にトイレの使い方はその国ごとの使い方があるので説明が必要である。その汚れ方を見ると、どうも日本人と違う使い方をしているみたいだと感じる。内容が内容なのでコミュニケーションがとりにくい、その国の文化を理解する上でも大切なことだと思い、使った方々から聞き、どのように伝えたらその国の人にはわかりやすいか話し合いをしたり、情報をもらっている。

○佐藤ケイ子議員

たくさん気づかされることがあった。今までは外国人のお客様は団体客が多かったが、これからは個人のお客様が多いということで、それぞれの対応の難しさがあると思った。

観光でいうと体験型の観光が注目されていると思っているが、その海を生かした体験型観光についてもう少し詳しく教えていただきたい。

【回答：坂本さん】

私は洋野町に来て2年10カ月くらいだが、来た当初はコロナ禍真っ最中で、漁業関係者の方々から外部の方は自分たちの仕事場に入れたくないということで、体験は2年くらいできない状況だった。ことし行った体験としては、漁業関係者に協力いただき、ウニ割り体験やウニ増殖溝で漁業をしている姿を見せたりした。ウニを授精して、17ミリの大きさまで育てるウニ栽培漁業センターという施設は、基本的には関係者以外立入禁止なのだが、その施設で、小さいウニを触って、これが出荷されるまでどれぐらいの大きさになるのかなどという説明を施設の方にさせていただいたりした。これから少しずつ漁業関係者の方とも協力しながら体験の幅を広げていけたらと思っている。

○木村幸弘議員

改めてもう少しお聞きしたい。大久保さんからは、コミュニティFMは大きな放送局と違ってキャッチボールが大変重要だと思う。リスナーや地域の方々のいろいろな情報などにより、地域資源の発見やあるいはそこから発信していく役割をどのような形で行っているか、これまでの取り組みや経験から行われていることがあればぜひ御紹介いただきたい。

大清水さんからは、聖地巡礼の関係は達増知事がサブカルチャーを随分好きですから、そういう意味で岩手県のいろいろな漫画文化なども含めてあると思うが、そのような中で県外の聖地などいろいろなサブカルチャーとの連動性みたいなところを、ハイキュー!!ファンからまたいろいろなつながりや連携をとっていき動きなど、来た方々との交流の中でどのようになっているのかをお聞きしたい。

【回答：大久保さん】

おっしゃる通り県域局とは違い、リスナーの方との距離は本当に近い。どなたがメールをくださったかはラジオネームを見ればわかるぐらいの距離感でやらせていただいている。信頼できる方というのも当然あり、そういう方からいろいろ情報もいただいたりしている。コロナ禍で始めたラジオ de ウォーキングというイベントがあるが、外にもなかなか行けない状況で小さいラジオ局でも何かできるのではないかと考えたときに、ウォーキングだったら密にもならないしできるのではないかとということと、せっかくラジオ局主催なので地域の歴史をラジオで聞きながら歩いていただくというイベントを企画した。そこにリスナーの方にも参加していただいて、第1回目は天台寺で開催し、地域の小学生にガイドをしてもらった。そういうイベントもリスナーの方を交えて行っている。

【回答：大清水さん】

他のサブカルチャーというところが、どう捉えていいのか難しくて何とも言えないが、ハイキュー!!はバレーボールの漫画なので、試合相手としていろいろなチームが出てくる。軽米町は主人公がいる鳥野高校のモデルになっており、初期のころに対戦したチームの青葉城西高校は、チームの選手の名前に使われているのが岩手県内の温泉地だったので、それを上手に生かして自分の旅館をうまく売ったのが金田一温泉の割烹旅館おぼないである。世界からすごい数のハイキュー!!ファンが来ている。

青葉城西高校の岩泉君もすごく人気があるキャラクターで、岩泉町に聖地巡礼に行く、岩泉君の故郷を訪ねるというファンが多く、ファンの方々は岩泉牛乳や岩泉町でつくられているさまざまなものを入手し、それを食べるのが聖地への恩返しだと考えている。夏場になると、レンタカーを借りて国見温泉など秘境的な温泉地を巡る。それが青葉城西高校ファンの究極の聖地巡礼ということである。

サブカルチャーとの連携とは外れてくるが、ハイキュー!!のキャラクターの名前に東北6県各地の温泉地の名前がついているので、岩手県に限らず、東北各県の自分の推しの選手のゆかりになっている場所を訪ねてみたいということで、旅をしている方々はたくさんいる。

残念ながら、岩手県がかかわっているその他の漫画の聖地巡礼とハイキュー!!がつながっているかという、なかなかそういう話はあまり聞かない。最近あったのは呪術廻戦の作者が岩手県出身と伺ったが、五条先生の誕生日をなぜか岩手県で祝いたい、それも宮城県で五条先生が買ったお菓子を岩手県で食べたいと言って、当旅館に寄ったお客様がいた。何かしらこだわりを持って来て過ごして帰ったということが見えた話だった。

少し的がずれたかもしれないが、そういう形で岩手県に来て楽しんでいるお客様は、今外国人の方が多くなってきているので、そういうマニャックな旅が難しい状況にはなっているが、とりあえず旅館ができるサービスの一つとしては、外国人はあまり知らないようなので、こういう温泉地の名前がついていますよ、こういう所を訪ねるファンもいますよということを情報提供している。

○木村幸弘議員

岩手県にもいろいろなサブカルチャーの資源があるので、そういうものがうまくつながって生かせればいいと思う。また、道の駅から発信できるものもやはり要素としてあると思うし、先ほど星空が綺麗だという話などもあったし、あまちゃんだけではなく、いろいろな観光資源をちりばめたようなドラマ、映画、アニメなど実は掘り起こしてみるとあるものだと感じていて、もっと横のつながりで発信できればおもしろいと思う。

あと1点だが、九戸村で若い人たちがアイデアを出して取り組んでいったことは本当にすばらしいと思った。先ほど松本議員もおっしゃっていたが、若い人たちや外から来た人が普段はなかなか気づかないその地域の資源を発見し、それを発信していく力はとてもすごいと思う。そのあたりの若者たちの活動や取り組みをどういう形で支援しているのかについても具体的

にお聞きしたい。

〔回答：安ヶ平さん〕

オブチキは当会青年部の活動で4年前に誕生し、我々年寄りからするとブローラー産業は何も魅力がないと言っていたところを逆にこれを売っていきましょうという着眼点がすごかった。たまたまその中心になっていたのが村の職員なのだが、実は他市町村から来て勤務していた。外部発信力というか、SNSやイラストなどいろいろな能力にたけており、うまくそこにはまった。さらに地域おこし協力隊の数名が村の情報発信の役割でかわり、ちょうどいいタイミングで発信することができた。オブチキは村の非公認キャラクターだが、どのような意図があったかは聞いていない。今の地域おこし協力隊は3月に3年の任期を終えるためどうしようかと悩んでいるのが、オブチキにいつまでもかかわって九戸村で仕事をしていきたいが、いかんせん仕事としてやっていけない。若い人たちが非常に悩むぐらいオブチキに魅力を感じ、オブチキを思っているのが、仕事で若い人が活躍できる場を我々が提供すること、外部から来た人たちをいかに参画させて拠点をつくるか、もしその方達が九戸村に残って暮らしてくれるのであれば、その仕事をどうつくっていくかなどを今考えている。

○吉田敬子議員

たくさんのお意見を伺って、漫画のハイキュー!!やオブチキもそうだが、スポットで行かれている方々もいらっしゃるのだと思った。

道の駅いわて北三陸のポケモンの公園の話があったが、岩手県がポケモン社と観光協定を結んだことも大きいのではないかと個人的には思っている。やはりポケモンを目当てに道の駅いわて北三陸に来ている方が多いのか、そういう方がどの程度いらっしゃるか、何となくでもわかればお伺いしたいというのが一つ。

それから、私は観光の中でも教育旅行、教育観光を岩手県でもっと頑張りたいと思っています。洋野町については子供たちの教育旅行、体験型も含めて幅の広がりがあると思っているが、現在の状況等やさらに広げる中で課題があればお伺いしたい。

御所野遺跡についても、今盛岡市がニューヨーク・タイムズ紙に取り上げられて、インバウンドが盛岡市から県北沿岸の方にも広がってほしいと思っている中で、世界遺産に登録されている御所野遺跡のルートがあるとすごくいいと思っている。県としても考えているとは思いますが、御所野遺跡の教育旅行やインバウンドについて課題があればお伺いしたい。

〔回答：大向さん〕

ポケモンに関してだが、岩手県の協力のもと、ポケモンローカルActsというポケモン社の事業を活用して久慈市に公園をつくらせていただいたという経緯である。道の駅に来るお客様の中には、吉田議員がおっしゃるように、ポケモンがあるおかげでそもそも道の駅に興味のない属性の方にも来ていただいている。具体的にどれぐらいという数字は出せないが、イシツブテ公園のオープンと合わせてキャラクターを用いたドリンクを3種類組み合わせで出したところ、想定以上の売り上げが出た。

ポケモンローカルActsの事業が2026年3月末までは続くということなので、それまではポケモン社との連携を続けていきたいと思っている。ちょうど12月19日から岩手県立博物館でポケモン化石博物館が始まり、来年の4月でイシツブテ公園が一周年になることから、そこに合わせて今戦略を練っているところ。

〔回答：坂本さん〕

コロナ前は、東北の小学校などからの教育旅行の受け入れをさせていただいており、おのキャンパスを中心に、農業体験や、リンゴ収穫体験、パンづくり体験、豆腐づくり体験等、16ぐらいあるコースをそれぞれ体験いただいた経緯がある。1泊2日、2泊3日と宿泊を伴うも

のになると、民泊で対応していたようである。

だが、コロナ禍が明けてきて、今から受け入れをしようとなったときに、民泊を受け入れていた農家さんたちが高齢になったりとかして、やはりなかなかコロナ禍前のように受け入れをしていくことは難しいのではないかと思っている。

他の市町村でもそうかと思うが、洋野町には大人数、小学生の団体を受け入れられるような大きな宿泊施設がない。教育旅行を受け入れたいが、宿泊の面ですごく大きな課題があり、今後どのように対応していくのか、相談しながら決めていかなければいけないと思っている。

コロナ禍には、町外から小学生を受け入れての体験はしていなかったが、大野地区の山の子供が海の体験をしたり、海の地区の子供が山の体験をしたりという相互の体験はしていたので、その経験を生かして、今後、他市町村や県外の教育旅行の受け入れをしていきたいと思っている。

〔回答：小山田さん〕

教育旅行の影響について、新型コロナウイルス感染症のおかげで、岩手県内の修学旅行が集中し、本当にありがたいという感じだが、その後はあまりというところ。一般の旅行としては、首都圏からの縄文ツアーが定期的に続いており、いい取り組みだと思っている。それから、インバウンド対応としては、それほど使う場面は見ないが、英語と中国語が話せる職員を採用している。

○吉田敬子議員

私も木村議員と同じように、イシツブテ公園ができたときは渋滞にはまって、それだけで終わってしまい、先週末にやっと行くことができたのだが、今もポケモンを目当てに来ているのかなという家族連れも多々見受けられた。岩手県とポケモン社の協定のように、いろいろなどころとやっけていく効果というのはすごく大きいと、博物館の話もされていたが、そういうところにも波及しながら元気になるのだと改めて思った。

教育旅行の宿泊についても、やはり小さい市町村になると、受け入れのところが課題なのだと改めて感じて、勉強になった。

○名須川晋議員

私も地元花巻のコミュニティFMを聞いているが、地元だけではなくて、全国各地からメールが来る。サイマルラジオやラジコ、リスンラジオなどで聞いているが、やはり情報は圧倒的に首都圏のものが多いため、こちらから発信をする機会をできるだけ多くつくらないと、そこにもなかなか届かないという現実がある。そういう意味ではインターネットでラジオが聞けるという仕組みはすごくいいツールだと思っている。例えば、岩手県人会のような方々にパンフレットとか、皆さんが生まれ育った地元のラジオ局があるので聞いてくださいというPRをしてはいかがかといつも考えている。県の施策にもなっているのかもしれないが、ぜひともそういうことをしていただければと思う。

FM岩手ではふるさと元気隊というものがあり、平泉町と久慈市でやっているほか、軽米町や普代村ともコラボして、週1回程度10分ぐらい放送している。どうしてもコミュニティFMが成り立たないところはFM岩手を通じてやっているが、東日本大震災津波の発生から数年間は、被災者雇用助成金のようなものがあって、結構いろいろな自治体でコミュニティFMをつくったり、あるいはFM岩手にこういう番組をつくってということで情報発信をしていた。助成金もなくなり、どんどん縮小される中で、それでもやはり情報発信というものが必要だと思うので、ぜひとも全国各地や世界中に散らばっている岩手県人の方々に、地元のコミュニティFMもありますよ。ぜひともそこでイベントやら息遣いを知ってくださいというような情報発信をする機会があればと思うのだが、そのことについて大久保さんからコメントがありましたらお願いしたい。

【回答：大久保さん】

おっしゃるとおり、インターネットでラジオを聞いてメールをくださる方が多い。最近だと大阪府と新潟県の方からメールが届き、大阪府の方はゴールデンウィークにわざわざ来てくれた。そういう方も少なからずいらっしゃる。

コアな方だと、ラジオ局の受信報告書が欲しいという方がいる。いつ、どこで、このような放送を聞いたが、貴局が放送したもので間違いはないか。もし間違いなければ、ロゴがついたカードか何かを送ってほしいというようなやり取りをするのだが、そういう方もやはり県外の方がすごく多いと感じている。

コミュニティFMにはタイムフリー機能がないので、リアルタイムで聞くことはできるが、過去の放送は聞くことができない。リスナーの方からはタイムフリー機能のアプリがあるといわれるが、かかる予算がおそらく丸が一桁違うので、ちょっと難しいところ。現状、それでもインターネットラジオでリアルタイムで聞いてくださる方はいる。県外の方に聞いてもらうという意味では、在京二戸人会の方々には何度かタイムテーブル、番組表をお渡しして、二戸市にこういうラジオ局があつてこういう活動をしてるんですよとお知らせしたことがあるが、定期的ではないため、そういう機会がもしあれば、私たちもお知らせしたいと思っている。

○名須川晋議員

日頃から地元になくても地元を愛している岩手県出身の方がたくさんいると思うので、そういう方々に委嘱できるような政策的なものがあったら、県北広域振興局の方も来ているので、ぜひとも御配慮をお願いしたいと思う。

○工藤剛議員

道の駅いわて北三陸には、先日、東日本大震災津波復興特別委員会の現地調査の帰りに立ち寄らせていただいた。道の駅いわて北三陸という名前を聞いただけではピンとこなくて申し訳なかったのだが、写真を見て、この間行ったところだとわかったので、そこは強みだと思う。

例えば、一言で観光振興と言っても、地域ごとに課題が違うし、やることも違ってくると思う。自分の地域で頑張る、そこの点を線をつないで広く観光にというのが基本になってくるだろうが、予算や相談の面も含めて、一番身近なのはやはり市町村だと思う。ただ、地域振興に関しては、市町村だとやれることが限られてくるというのも現実だと思う。そこで、市町村や県は関係なく、やれるとかやれないとかということ抜きにして、行政でこういうことをやってもらえるといいとか、もっとこういうことがやりたいのにとというような、要望や思っていることがあればそれぞれお聞かせ願いたい。

【回答：坂本さん】

私も洋野町役場に所属しているので、言える立場ではないかもしれないが、外部から来た者の意見として申し上げますと、洋野町はもともと観光に対する期待度が低いと思う。洋野町水産商工課は観光担当が1人で、観光のイベント、たねいちウニまつりや種市夏まつり、たねいち海浜公園シーサイド花火大会があると、その1人が全部を担当する形になる。観光担当が観光協会の事務局も兼務しているので、そうすると観光協会の事務が行き届かなくなってしまう、本来、真夏の一番売りにしてPRしていかなければいけない時期にイベント対応に追われてしまつて、PRできずにシーズンを終わるという流れになっていて、とても残念だと思っている。観光に対応する人の人員配置などを、洋野町ではもう少し考えてほしいと思っているし、国の対策でいろいろな助成金とかが出て、1人ではそういう申請に対応ができない。教育旅行の関係でも、おおのキャンパスの宿泊施設を改修して綺麗にすれば、もっと宿泊のお客様を呼び込めると思っているが、洋野町としての予算はなく、国から予算を引っ張ってきたいとなつても、その申請手続をする時間がないというところで、私個人の意見にはなるが、何かこう、う

まく回っていないと感じており、そういうところをどうにかできたらいいのではないかと思っている。

【回答：大清水さん】

知事が推していることもあり、サブカルチャーが今、観光資源というか、インバウンドも含めてお客様に来ていただく材料になっている。しかし、実は集英社が絡んでいる関係で著作権が発生していて、このハイキュー!!という名前を表立って出してはいけないみたいなものがあるって、すごくダークなグレーゾーンのところで仕事をしている状態である。ただ、宮城県仙台市ではハイキュー!!という名前を使ったイベントが行われていたりする。

旅館の宿泊プランの中にハイキュー!!プランというものがあって、簡単に言うとハイキュー!!のファン向けサービスを行っているのだが、それもハイキュー!!プランとうたうことができなくて、聖地巡礼プランという形でアピールさせていただいている。その中で、ファンの方からいただいたグッズを利用して、自分たちで自分たちが泊まる部屋のデコレーションをしていただくというサービスを行っていたのだが、それもファンの方から寄付していただいたグッズというすごく曖昧な言い方をされていて、もしかしたら、限りなくブラックに近いグレーの部分に入ってしまうのではないかと。仕事をする上でも、著作権の部分が余りにも曖昧なので、どこまでが許されて、どこからが許されないか、どこまでがサービスとしてやっていいのかということがわからなくて、何も言われていないからいいかなという、我々もスッキリしない感じで仕事をしているということがある。

著作権問題がとても難しく、お金もかかわってくると思うので、軽米町だけでは対応しきれない部分があるのかなとか、きちんと話し合いをするにしても専門家の方が聞かなきゃならないということがもしあるのだとすると、やはりそれも軽米町では大変なのかなとか、あまりにも知らない世界のことなので、勝手な想像しかできないのだが。

ハイキュー!!は、県の財産でもあると思う。作者も岩手県出身ですし、アニメの中では、宮城県ということにはなっているけれども、やはり岩手県にゆかりのあるキャラクターや場所がたくさん出てきているので、その著作権を含めたいろいろなものがいい方向に解決されて、ハイキュー!!とうたっても大丈夫という感じになれば、我々の仕事もしやすくなるし、いろいろな情報発信もしやすくなるので、そういうものが少し解決できるようになればいいということはずっと前から考えている。

◆ 感想

○村上秀紀議員

各地域にそれぞれ独自の地域資源があるのだということを再認識した。きっと地域資源と観光資源というのはまた別なもので、形あるものもあれば、その中の考え方というものもあると思う。

私は紫波町の人間なので、手前みそになるが、紫波町には公民連携で行っているオガールがある。これは結果的に観光資源になってしまったという部分もあるが、もともとオガールを始めるときに、毎年100万人が訪れる場所として作り上げたということもあるし、同時に、あそこは大きな民間の公民館なので、地域の人たちがどうやってそこで暮らし、居心地の良い施設にするかということをダブルで考えたところである。

最終的にコロナ禍前までは、自治体の行政視察件数は2から3年連続で全国一番になった。何で訪れたかという、オガールという建物を見に来たわけではなくて、公民連携の考え方、手法ではなくそこに至るまでのさまざまな思考を皆さんが勉強されて、全国各地に持ち帰った。紫波町はもともと観光資源として目立つものはなかったのだが、皆さんが訪れることによって、もともとあったリンゴとかブドウ、日本酒、あるいは標高900メートルぐらいの小さな山もいつの間にかトレッキングの練習コースとして認知され始めたりして、それが紫波町の観光振興につながっているという面がある。

例えば、オブチキが紫波町の市民活動団体を訪れて交流を深めているところもあるし、きっと

オブチキにしても、今すごく表面的に派手で目について若者にもすごく受け入れられやすいところだと思うが、もしかしたらそこに至るまでの根底にあるものをもう一度掘り返してみると、またそこにかかわってくる方もふえてくると思う。オガールも、全国から中心となる人物が集まってきて、最終的に全国レベルのものができて、今は中心となってやっていた紫波町の方は、全国各地にまちづくりの話をしに行くだけではなくて、沖縄の観光振興にも取り組んでいきたいということで、自ら沖縄県に会社を立ち上げて、岩手県と沖縄県を往復している。

私が最終的に何を申し上げたいかという、地域資源があって交流人口がふえて、最終的に観光振興に繋がるということ。直接観光振興に繋がるものもあれば、ワンクッション置いてというものもあるが、地域資源にはいろいろな角度があり、そうすると県北各地の皆さんも自然とマッチングされて、一つのエリアになっていくということも考えられる。いろいろお話を聞きながら、紫波町の例を交えて申し上げた。たくさんお話をいただき、感謝申し上げます。

○大向さん

改めてきょう、いわて北三陸という道の駅の名前をまだまだ覚えていただけていないということがわかったので、もっともっと頑張らなければいけないと思った。

○大久保さん

普段は久慈市や洋野町の方とお会いしてお話を伺うことがないので、貴重な時間となった。

○大清水さん

確認してからはなるが、きょう意見交換会に参加してきたよということをさっそくSNSに上げたいと思う。沿岸部は意外と遠いイメージがあったが、いろいろ頑張っている方もいるということがわかったので、これからの発信の中で、情報の一つとして沿岸部のことも入れていきたいと思った。これから県北地域がもっと注目されていくように、お客様に伝えて、口コミで広がっていくように、もう一つ、自分もできることをふやしていきたいと思う。

○安ヶ平さん

きょうこの場に来て、少なくとも九戸村のオブチキという、私が話したことに對して否定はされなかったのが、よかったなと思ってる。私も若い時分によく上の人たちから、若者、よそ者、時にはばか者の意見を入れなきゃだめだと言われてきたのだが、結局今自分がその立場になってできていないと感じた。特に村上議員からの、今は派手なところだけ見えていいかもしれないけどという話は全くそのとおりで思っている。決して打たれることなく、いいものは持っているで自負しているので、これを育てていながら、新たな九戸村の魅力、そして、きょう皆さんがお話されていたインバウンドの受入体制については、次々と考えていかないと課題が出てくると思うので、それを胸にとめて仕事をしていかなければと思っている。

○坂本さん

私も会議などに参加すると、どうしても八戸市とか久慈市、普代村、野田村の方と同席することが多かったのが、このような機会を設けていただいて、皆さんの思いや感想を聞くことができるとても勉強になった。

○小山田さん

観光振興について、これという意見を持ち合わせていないが、私たちは世界遺産のガイドとして、世界遺産を知っていただく、地下にある遺跡に縄文時代の価値があるということを知っていただくことが一番大切だと思っている。復元された様子だけを見て、世界遺産を見たかと言われるお客さんが大半なのですが、ガイドに耳を傾けていただけのような、そして価値を知っていただけるようなガイドを心掛けたいと思う。

○高橋こうすけ議員

本日は、皆様から貴重な御意見をいただいた。皆様のさまざまな視点で、さまざまなお話をいただき、本当に勉強になった。これからの県政にしっかりと生かしてまいりたいと思っている。

本日いただいた御意見・御提言は全議員で情報共有して議会活動に生かしていく。これからも県議会に対する御意見・御提言があったら、地元の県議会議員や県議会事務局までお寄せいただきたい。

お忙しいところ御参加いただいたことに感謝を申し上げ、閉会とさせていただきます。